

第 1 部

「基調講演」

聖隷クリストファー大学教授 太田 貞司

内山順夫（男性介護者と支援者の全国ネットワーク副代表）

本日の講師の太田貞司先生をご紹介します。先生は、現在、男性介護ネットの顧問で、浜松にございます聖隷クリストファー大学の教授でいらっしゃいます、太田貞司先生に「荒川オヤジの会 20 年に学ぶ—日本初の男性介護者の会の活動から—」という題で、ご講演を頂きます。先生、よろしくお願いいたします。大田先生は、三十数年前、荒川区の保健所の非常勤の医療ソーシャルワーカーでありました。保健所に医療ソーシャルワーカーがいるというのは、その当時は荒川区だけだったと思っております。私もその頃から社会福祉協議会に勤めておりましたので、一緒にいろいろお仕事をさせていただきました。先生から「介護事件を絶対に起こさないようにしよう。特に男性の介護者の場合、いろいろと問題があるんだよね」と言われて、私はその言葉に非常に触発されました。その後、先生の後任の医療ソーシャルワーカーが、この男性介護者の会を立ち上げたという話になります。現在も、荒川区の介護保険の委員会の委員長ですとか、あるいは社会福祉協議会の地域活動計画の策定の推進について、いろいろと活躍いただいているところでございます。荒川区には、どっぴりと縁のある先生でございます。ソーシャルワーカーが、オヤジの会 20 年になったということで、当時のことも振り返って頂きながらご講演いただきます。よろしくお願いいたします。

1. 荒川区「オヤジの会」の誕生

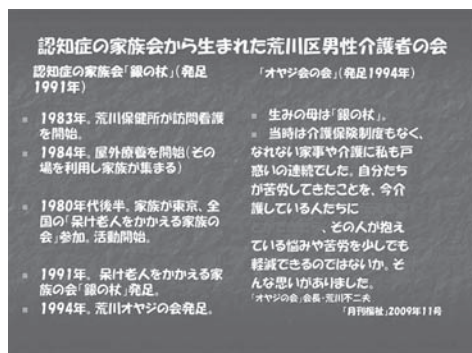
ただいまご紹介を頂きました太田貞司と申します。よろしくお願いします。

記念講演というお話を頂いた時、私に記念講演をする資格があるのかどうかと思いながらお引き受けいたしました。というのは、副代表から大変ご丁寧な

ご紹介を頂きましたけれども、私は荒川区の保健所で1982年から約9年間、神経難病患者や高齢者の在宅ケアを担当する非常勤の医療ソーシャルワーカーの仕事をさせて頂いておりました。その保健所のころですが、1980年代の中旬ごろと思いますが、荒川不二夫会長や内山順夫副代表と出会い、一緒に介護者の問題を考えるようになりました。ですから、私が今まで荒川で学んだことを今日はお話ししたいと思ってきました。

私がいちばん思うのは、「なぜ、オヤジの会が続いてきたのだろうか」、「何がその力だったのか」ということです。荒川会長に励まされてこれまでいろいろやってきましたが、それは何だったのかということです。そして、それを次の時代にどう引き継いだらいいのかというところです。私の思い付くままですが、お聞き頂ければ有難いと思います。

2. 発足の背景



まず、「オヤジの会」の発足の背景からお話ししたいと思います。「オヤジの会」は荒川区の「銀の杖」(認知症の人とその家族の会)が“生みの母”です。荒川区に「銀の杖」が生まれたのは1991年のことです。それは、京都で認知症の家族の会が生まれて10年ほどしてからのことです。

す。その3年後の1994年に、「銀の杖」から「オヤジの会」が生まれました。

1994年の夏のことで、もうお亡くなりになった方もおりますけれども、男性家族介護者として荒川会長をはじめ何人かと、今日はお見えでないのですが、先ほど副代表がお話されましたが、私の後任の荒川保健所の医療ソーシャルワーカーの長島明子さん、今日ここにおられる荒川区の訪問看護師の松村美枝子さんが支援者の立場で、荒川区の区役所の食堂にあつまり、「会」をつくらうと話し合いました。荒川会長等は「銀の杖」の活動に参加していたのですが、男性介護者の独自の問題もあり、男性だけで集まることも大事ではないか、

という思いがありました。そして、荒川区社協の内山さんも巻き込んで、同じ年の秋に第1回目の「オヤジの会」の集まりをもとうということになりました。

でも、「男性はあまりしゃべらないので、お酒がないと駄目なのではないか」ということになりました。そこで、会場を保健所の近くの居酒屋『圓太』としました。これが「オヤジの会」の出発点になった訳です。

当時の、1990年代の初頭というのは、いろいろな面で大きな時代の変わり目でした。ちょうどゴールドプランが始まったころです。また、介護保険制度創設の議論も始まっていました。議論の中で、家族介護者の介護負担の問題が盛んに議論されるようになっていました。ですけれども、まだ介護者一人一人の問題とか、また男性介護者の問題には、目が届かなかった時代でした。こうした中で、「オヤジの会」が生まれました。

3. 介護体験を伝える

荒川会長が『月刊福祉』（2009年11月号）にお書きになっておりますけれども、荒川会長たちは「オヤジの会」を、「私たちの介護を伝える」という思いでつくられたと言っています。

このメッセージは、多くの人に非常によく、はっきりと伝わりました。他の人に、次の人に伝えようという思いです。このメッセージが伝わったということが、「オヤジの会」自身の大きな励ましにもなりました。この思いは、今も続いていると思います。

そして、そのためには、どうしても「話し合える場」が必要なわけです。そうした場を欲しいということになりました。また、その思いの中には、荒川区の中で、介護の悲惨な「心中」事件が起こらないようにしようというメッセージも含まれていました。これは、支援者たちの胸に響き、大きな訴えにもなったと思っております。そしてそれがさらに全国にも広がっていったように思います。

京都府の男性介護者のパンフレットに出ていますように、これからは「働きながら介護をする」時代、介護をしていても仕事を辞めないで、介護と仕事が両立できることが求められる時代になってきました。これは、荒川会長をはじめ全国の皆さま方の力ではないかと思いますが、大きな変化が生まれてきまし

た。

話を戻しますと、荒川区では、さきほどの「銀の杖」は、1991年にでき、少しずつ家族介護者が集まりを持つようになってきました。このなかに男性の介護者も入っていたのです。入っていたけれども、会場の後ろでそっと、何も言わないで座っていたのです。荒川会長も、今はお話しされますけれども、当時はそっと座っていました。そうしたこともあって、荒川会長が、男性は男性で問題があって、しゃべられる「場」をつくらうではないかということを考えて「オヤジの会」をつくられたわけです。

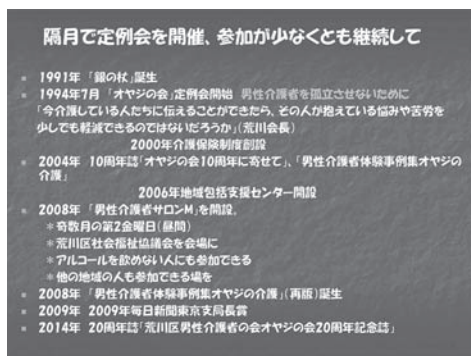
荒川区は東京の下町です。町工場のまちです。そこに、戦前、全国から集まって働いていた人たちが住んできたまちです。かつては子どもも多かったところですが。今は高齢化率が高い、都内では高齢化した区の一つです。

1980年代は、サービスがないために要介護の高齢者だけが外出できなかったのではなく、女性の介護者も男性の介護者も、介護のために、長時間、家から出ることはとても困難でした。出られるのですが、2時間以上の外出はできなかったのです。介護者が1泊の旅行をするというのは、ほんとうに夢のようなことだったのです。1980年代後半になり、ショートステイが冠婚葬祭以外に、介護疲れのためにいろいろ利用できるようになりますが、まだまだ介護者が自由に歩けるような状態ではありませんでした。

1980年代の前半のことですが、なんとか1年に1度は高齢者の外出の機会を作ろうということが、保健師さん等からも声が出てきていました。そこで、荒川区で在宅の難病の人や要介護の高齢者を対象に、ボランティアの協力もあって、外出の機会をつくるために「お花見会」の集まりがもたれるようになりました。何度かこの集まりを持つ中で、その時を利用して、少しの時間でもよいので、家族介護者の集まる場もつくっていかうということになりました。

このようにして介護者だけの集まりが生まれ、介護者同士の交流の場が荒川区内で少しずつできてきたわけです。介護者だけで集まって交流をする場を持ったことがきっかけで、4～5年後目くらいには、認知症の人の介護者の会の「銀の杖」ができました。それが荒川区の場合ですが、「オヤジの会」ができる大きな力になったわけです。ですから、荒川区の場合、集まりの場をつくるというのは、とても大事だったと思います。

4. 継続した力



次に、なぜこのように、途中で途切れることもなく、「オヤジの会」が続いてきたのかということをお話したいと思います。参加者が少なくとも継続してきたことが大事だったと思います。このことを「オヤジの会」の中心メンバーが大事にしっかりと守ってきたわけです。これは、

とても努力が要ることだったと思います。途中で、いろいろ制度も変わってききましたが、「オヤジの会」としては、ずっと広まっていったわけです。

2004年には10周年の集まりがもたれました。この10年間はいろいろな方々の支援もあり、迎えることができました。2008年には「男性介護者のサロンMの会」という会が立ち上がっています。

これは、お酒がないと話ができないといっても、中には、お酒が嫌いな人もいます。そういう人たちのために場をつくろうという提案が出てきました。そのために、鈴木訪子課長さんや、内山副代表さんらの社協の職員、荒川区社協の協力で、社協の中に会場をつくってくれました。そして、この「Mの会」は、荒川区以外の方々にも開放して、荒川の「オヤジの会」の経験を学ぶ場になっていきました。この同じ年に、全国のネットが出来たわけです。2009年には、毎日新聞の賞を頂いて、これが随分励ましにもなりました。2014年には、20周年を迎えました。

5. 6つの力

荒川区・オヤジの会は、なぜ継続できたのだろうか

- 目的を明確に、隔月で定例会を開催（2008年から「男性介護者サロンM」を奇数月の第2金曜日・昼間）、参加人数が少なくとも、継続して。
- 話しやすい場づくりの創意工夫。
- 会運営の複数のリーダーと卓越した会長の「力」
- オヤジの会の生みの親の「銀の杖」とのタイアップ
- 途切れなかった保健・医療・福祉関係者の支援、とりわけ行政と社協、開業医の継続的な支援があったこと、地域包括支援センター、都社協の支援も。
- 地域の人達の理解と応援（会場の提供など）。
- マスコミ関係者の支援（毎日新聞など）。
- 多くの人の学びの場として

これ以外に、「オヤジの会」が継続した力を考えてみますと、6つのことがあるように思います。第一は、会の運営を複数のリーダーで担うように努力されてきたことではないかと思います。会長の卓越したリーダーシップと同時に、複数のリーダーという力があったように思います。

第二は、「銀の杖」は、「オヤジの会」の生みの母というだけではなく、その後も「銀の杖」と「オヤジの会」のタイアップした取り組みがあったことだと思います。お互いが励まし合い、支え合ってきたこともとても大きいのではないかと思います。第三は、地域の人達の応援があったことではないかと思います。会場を貸してくれた居酒屋経営者、喫茶店経営者、施設関係者等のさまざまな理解が広がっていきました。第四には、荒川区社会福祉協議会が、「オヤジの会」の設立の時から、多面的な支援を続けてくれたことも大きかったと思います。第五には、区内の専門職の人達の継続的な協力も大きかったように思います。区内の訪問看護師、ホームヘルパー、ケアマネジャー、地域包括支援センター職員が会の活動にいろいろな形で参加し、集まりにもでてきてくれて悩みごとの相談から、運営の支援までいろいろ関わってくれたことです。しかも、途切れることなく継続的に関わってくれたことがとても大きなことではなかったかと思います。第六は、荒川区も行政として、いろいろな支援をしてくれたことが大きいと思います。高齢者福祉、障害者福祉、保健所等からのいろいろな形の支援がありました。

6. 男性介護者とその支援者に向けて

荒川区の「オヤジの会」の誕生と歩み、その継続の力について、私が学んできたことをお話してきましたが、全国の男性介護者とその支援者に、次の時代に向け、「かたろう！男の介護」、「つたえよう！私の介護体験」、「ひろめよう！

介護の仲間と集い」、「かえよう！介護保険と介護休暇」、「なくそう！介護退職と介護事件」と申し上げたいと思います。

資料

- (1) 「20 年のあゆみ」
- (2) 長島明子「オヤジたちへの賛歌」

<資料 (1) >

20 年 の あ ゆ み

1994年 平成6年度

月 日	会 名	会 場	内 容
平成6年 6.21(火)	設立打合せ の集まり	区役所地下一階 さくら食堂	男性介護者の会設立打合せ初代会 メンバー4人、スタッフ3人
7.16(土)	定例会	圓 太	会の名称決定 「オヤジの会—男性介護者の会」会の規約決め
9.17(土)	定例会	圓 太	会の世話人決定/会則作り 会長 荒川 不二夫 副会長 寺村 高雄 副会長 鍋木 義行
11.19(土)	定例会	圓 太	◎学習会 訪問看護の制度について 佐藤 係長 ☆懇親会 総会4月に行なう
平成7年 2.18(土)	定例会	圓 太	◎学習会 福祉の制度について 向田 係長 ☆懇親会 総会について

1995年 平成7年度

月 日	会 名	会 場	内 容
4.14(金)	第1回総会	荒川保健所 大会議室	◎総会 平成6年度の活動と会計報告 平成7年度の活動と予算等 ☆懇親会
6.17(金)	見学会	荒川通所サービ スセンター見学	◎案内説明 内山 所長
8.19(土)	定例会	高齢者センター	◎学習会「オヤジの会に入会したわけ」 医療短大 奥山則子 先生 ☆懇親会
平成7年 10.21(土)	定例会	高齢者センター	◎学習会「今からの在宅医療」 小島医院 院長 小島 靖 先生 ☆懇親会
12.16(土)	定例会	高齢者センター	◎学習会「老人保険制度とのつきあいかたについて」 佐藤 係長 ☆懇親会
平成8年 2.17(土)	定例会	高齢者センター	ラジオ放送のテープを聞き 今後の活動について話し合い
イベントへ参加			
7.10.26 (木)	福祉公社設立3周年記念		荒川会長出席「オヤジの会」の話をを行う
7.10.29 (日)	難病シンポジウム		寺村副会長「オヤジの会入会のおさそい」配布
8.2.17(土)	尾久相談所地域懇談会		鮫島会員 オヤジの会紹介

1996年 平成8年度

月 日	会 名	会 場	内 容
平成8年 4.20(土)	第2回総会	荒川保健所講堂	◎総会 平成7年度活動報告、会計報告 平成8年度活動方針、会計予算 ☆懇親会
6.15(土)	定例会	高齢者センター	◎学習会「たんぼ計画について」 講師 社会福祉協議会 小野氏 ☆懇親会 日本テレビ取材参加あり
8.31(土)	講演会	サンパール荒川 小ホール	演題「21世紀にむけての在宅介護」 講師 太田 貞司 先生 ☆懇親会
10.19(土)	定例会	アクト21	◎学習会「老後の住環境と介護」 講師 荒川会長 ☆懇親会
12.14(土)	定例会	アクト21	経験交流 ☆懇親会
平成9年 2.15(土)	定例会	アクト21	◎学習会「レンズを通してみた生命の輝」
イベントへ参加			
8.11.21	研修講座	アクト21	男女平等問題研修講座 講師 会長 荒川 不二夫
8.11.30,12 .7	研修講座	福祉公社	男性の為の介護講座 参加 荒川氏、寺村氏、鍋木氏、
9.11.30,2. 28	研修講座	尾久相談所	「看護教室」出席 石田氏、 荒川氏

1997年 平成9年度

月 日	会 名	会 場	内 容
4.25(金)	第3回総会	アクト21	◎総会 平成8年度活動報告、決算報告 平成9年度活動方針、予算 ◎講演会 「介護者の心の健康」 講師 小島 靖先生
9.25(木)	料理教室	保健所栄養室	「食事作りの基礎の基礎」 講師 栄養士 新村 真由美氏 石毛 貴子 氏
12.13(土)	定例会	アリエス たちばな	◎学習会 「一生自分の歯で食べるために」 講師 歯科衛生士 山田 宏美 氏 ☆懇親会
平成10年 3.14(土)	定例会	アクト21	◎学習会 「健康について」 講師 本保 予防課長 ☆懇親会
イベントへ参加			
h9.9.26	講演会	豊島区立男女平等推進センター	荒川会長 「オヤジの会」について講演 (住宅改造を兼ねて)

1998年 平成10年度

月 日	会 名	会 場	内 容
平成10年 4.20	第4回総会	荒川保健所 大会議室	◎総会 平成10年度活動報告、決算報告 平成11年度活動方針、予算
6.19	定例会	アクト21	◎学習会 「介護保険制度について」 講師 介護保険準備担当 高梨課長 ☆懇親会
9.19	定例会	アクト21	会員の交流と介護相談
10.24	定例会	アクト21	◎学習会 「男性介護現在・過去・未来」 講師 長島 明子氏 ☆懇親会
12.13	銀の杖と 合同交流会	保健所講堂	交流会 男性介護者の会紹介、他区の方と交流
12.19	忘年会	荒川寿亭群	交流会 支援会員多数参加
2.20	定例会	アクト21	◎講演会 「男性が女性を介護するとき」 講師 都立保健科学大学 奥山 則子助教授

1999年 平成11年度

月 日	会 名	会 場	内 容
4.22(木)	第5回総会	荒川保健所 大会議室	◎平成11年度活動報告、会計報告 平成12年度活動方針、予算案 ☆懇親会
6.19(土)	定例会	アクト21	◎学習会 「相談の窓口に見えるもの」 講師 尾久介護センター 八田 桂二 氏 ☆懇親会
9.18(土)	定例会	アクト21	◎学習会 介護保険制度に向けての学習会 ☆懇親会
10.16(土)	銀の杖等と 合同交流会	生涯学習 センター	◎学習会 「介護保険制度について」 講師 介護保険準備担当 高梨 課長
12.13(土)	定例会	アクト21	◎学習会 「介護保険と上手に付き合う」 講師 ケアマネジャー 長島 明子 氏 ☆懇親会
平成12年 2.19(土)	定例会	アクト21	◎講演会 「私達の生活について」 講師 都立保健科学大学助教授 奥山 則子氏 ☆懇親会

2000年 平成12年度

月 日	会 名	会 場	内 容
4.15 (土)	第6回総会	アクト21	◎総会 平成11年度活動報告、決算報告 平成12年度活動方針、予算案 ☆懇親会
6.17 (土)	定例会	アクト21	◎学習会「インターネットって何」 講師 北川 孝幸 氏 ☆懇親会
9.16 (土)	定例会	アクト21	オヤジの会ホームページ開設についての勉強会 支援講師 松村 登 氏 ☆懇親会
10.21 (土)	定例会	アクト21	◎学習会「介護者の健康管理『運動と休養の進め』」 講師 荒川保健所保健サービス課課長 宮本真理子氏 ☆懇親会
12.16 (土)	定例会	アクト21	◎学習会「オヤジの会、会員調査結果報告」 講師 都立保健科学大学助教授 奥山則子氏 ☆懇親会
平成13年 2.17 (土)	定例会	アクト21	◎学習会「介護保険その後、利用状況調査結果より」 講師 荒川区高齢者保健福祉課 高梨 博和 氏
イベントへ参加			
10.14 (土)	第2回 介護フェア	町屋文化 センター	◎第2回介護フェア 「オヤジの会」入会案内配布 活動紹介で加藤嘉昭氏が介護されている状況を話された
10.21 (土)	調査	会員宅	「オヤジの会」会員の介護状況調査を会員宅訪問して行う 12月の定例会でまとめの説明 担当 奥山 則子 先生

2001年 平成13年度

月 日	会 名	会 場	内 容
4.20 (金)	第7回総会	アクト21	◎総会 平成12年度活動報告、決算報告 平成13年度活動方針、予算案 ☆懇談会
6.16 (土)	定例会	アクト21	◎学習会「痴呆との接し方について」 講師 林診療所 所長 林 伸治 先生 ☆懇談会
9.13 (木)	定例会	アクト21	◎学習会「荒川区での保険事業の現況」 講師 高齢者保健福祉課課長 高梨博和氏 ☆懇談会
10.20 (土)	定例会	アクト21	◎学習会「健康管理について」 講師 小島医院院長 小島 靖 先生 ☆懇談会
11.24 (土)	定例会	アクト21	◎学習会「男性が介護することについて」 講師 東京慈恵医科大学医学部看護学科 教授 奥山 則子 氏 ☆懇談会
12.15 (土)	定例会	アクロスあらかわ アクト21	◎学習会「介護マラソンの上手な走り方」 講師 カウンセラー 羽成 幸子 氏 ☆懇談会
平成14年 2.16 (土)	定例会	アクト21	◎学習会「人生を大切に」 講師 東京慈恵医科大学医学部看護学科 教授 奥山 則子 氏 ☆懇談会
イベント参加			
13.9.29 ,30	フェスティ バル	アクト21	◎アクト21フェスティバル オヤジの会ポスター掲示
13.10.6	講演会	町屋在宅高齢者通所 サービス センター	◎講演会「介護の心がけ」 講師 会長 荒川 不二夫 氏
	福祉まつり 介護フェア	荒川総合スポー ツセンター	◎第16回あらかわ福祉まつり・あらかわ介護フェア2001 オヤジの会紹介コーナーと会員募集
13.12.15	講演会・主催 銀の杖 オヤジの会	アクロス あらかわ	◎講演会「介護マラソンの上手な話し方」 講師 羽成 幸子 氏

2002年度 平成14年度

月 日	会 名	会 場	内 容
4.19 (金)	第8回総会	アクト21	◎総会 平成13年度活動報告、決算報告 平成14年度活動方針、予算案 ☆懇談会
6.15 (土)	定例会	老人福祉 センター	◎学習会「臭いで困っていませんか」 講師 はやし診療所院長 林 伸治先生 ☆懇談会
7.30 (火)	施設見学	花の木・ハイム荒川	介護老人福祉施設 案内 施設長 池田 氏
8.30 (金)	料理教室	荒川保健所 調理室	調理実習 講師 荒川保健所 栄養士 新村 真由美 氏
9.21 (土)	定例会	老人福祉 センター	◎学習会「お年寄りの罹りやすい病気」 講師 尾久クリニック白昌善 先生 ☆懇談会
10.19 (土)	定例会	花の木・ハイム荒川	◎学習会「医療の歴史とピン・シャン・コロリ(PSK) の達成について」 講師 宮ノ前診療所所長 土屋悟史先生 ☆懇談会
12.9 (木)	定例会	花の木・ハイム荒川	◎学習会「第二期荒川区高齢者プラン(中間のまとめ)」 講師 荒川区介護保険課課長 皆川誠氏 ☆懇談会
平成15年 2.15 (土)	定例会	花の木・ハイム荒川	◎学習会「成年後見制度」 講師 荒川区社会福祉協議会係長 鈴木訪子氏 ☆懇談会
イベント参加			
平成14年 7.22 (月)	集い	ラングウッド	主催 荒川区社会福祉協議会 荒川区介護者の集い 「オヤジの会」4名出席
9.22 (日)	アクト21 フェストバル	アクト21	「オヤジの会」紹介用ポスター掲示
平成14年 11.9 (土)	介護フェ ア	総合スポーツセ ンター	第4回介護フェア・第17回あらかわ福祉まつり 「オヤジの会」紹介コーナ会員募集

2003年度 平成15年度

月 日	会 名	会 場	内 容
4.18 (金)	第9回総会	花の木・ハイム荒川	◎H14年度活動報告・会計報告 H15年度活動方針・予算 ☆懇親会
5.17 (土)	定例会	花の木・ハイム荒川	◎学習会「ケアプラン作成とケアマネジャーと上手に接し方」 講師 ケアマネット荒川 山崎 氏 ☆懇親会
6.21 (土)	定例会	花の木・ハイム荒川	◎学習会『健康の話について』 講師 はやし診療所 林 伸治 先生 ☆懇親会
7.19 (土)	定例会	花の木・ハイム荒川	◎学習会「積極的養生法」 講師 宮ノ前診療所所長 土屋悟史先生 ☆懇親会
9.20、21	旅行	ホテルグリーン パール那須	◎一泊バス旅行 参加者12名 (ゆったりバスの旅)
9.27 (土)	定例会	花の木・ハイム荒川	◎学習会「高齢者のための保健と福祉サービスのご案内」 講師 荒川区高齢者保健福祉課課長 池田 洋子 氏 ☆懇親会
11.15 (土)	定例会	花の木・ハイム荒川	◎学習会「バリアフリー住宅」 講師 荒川不二夫会長 ☆懇親会 10周年記念誌発行の件
12.19 (金)	料理教室	荒川保健所調理室	◎実習「肉じゃが」他 講師 栄養士 新村 真由美 氏
平成16年 1.17 (土)	定例会	花の木・ハイム荒川	◎学習会「他地域の男性介護者の状況」 講師 東京慈恵医科大学医学部看護学科 教授 奥山 則子 氏 ☆懇親会
2.21 (土)	定例会	花の木・ハイム荒川	◎学習会「前立腺手術の体験発表」 講師 荒川 不二夫 会長 ☆懇親会
イベント参加			
平成15年 5.9 (金)	銀の村総会	アクロス あらかわ	荒川会長、相川副会長出席
8.29 (金)	講演会	町屋文化センター	自分らしく生きられるグループホーム 主催 介護サービスを良くする会・荒川協力オヤジの会
11.15 (土)	講演会	総合スポーツセンター	第18回あらかわ福祉まつり第5回あらかわ介護フェア

平成 21 年度

月 日	会 名	会 場	内 容
4 月 17 日 (金)	第 15 回総会	荒川山吹 ふれあい館	平成 20 年度活動報告・会計報告、 平成 21 年度活動方針・予算案、 交流会
5 月 8 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
6 月 20 日 (土)	第 1 回定例会	花の木ハイム荒 川	学習会「NHK テレビで放映され た今年度総会の反響について」 講師 荒川会長、交流会
7 月 10 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
8 月 22 日 (土)	第 2 回定例会	荒川山吹 ふれあい館	学習会「AED (自動体外式除細 動器) の操作講習」講師 荒川消 防署の署員さん、交流会
11 月 7 日 (土)	男性介護者の つどい in あらかわ	首都大学東京 荒川キャンパス	立命館大学 津止正敏さんの講 演、甲斐京子さんのミニコンサ ート、交流会
12 月 19 日 (土)	第 3 回定例会 忘年会	カフェ・ワイズ	学習会「男性介護者と支援者の 全国ネットワーク」発足の報告 講師 荒川会長 (ネットワーク代 表)、交流会
平成 22 年 1 月 8 日 (木)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
1 月 20 日 (水)	第 5 回定例会	荒川山吹 ふれあい館	交流会 新年の集い
2 月 20 日 (土)	第 6 回定例会	尾久橋町会会館 「プラザ尾久橋」	学習会「男性介護者と支援者の 全国ネットワーク発足後の反響 について」講師 荒川会長 (ネッ トワーク代表)、交流会

平成 22 年度

月 日	会 名	会 場	内 容
平成 22 年 4 月 16 日 (金)	第 16 回総会	荒川山吹 ふれあい館	平成 21 年活動報告・会計報告 平成 22 年活動方針・予算案 交流会
5 月 14 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
6 月 25 日 (金)	第 1 回定例会	カフェ・ワイズ	交流会
7 月 9 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
8 月 20 日 (金)	第 2 回定例会	荒川山吹 ふれあい館	交流会
9 月 10 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
10 月 16 日 (土)	第 3 回定例会	カフェ・ワイズ	学習会「介護保険の使い方と現状」 ケアマネット：介護支援専門員の会 交流会
11 月 12 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
12 月 16 日 (木)	第 4 回定例会	荒川山吹 ふれあい館	交流会
平成 23 年 1 月 14 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
2 月 19 日 (土)	第 5 回定例会	アクロス荒川	学習会「成年後見制度」 社協：石塚氏 交流会

平成 23 年度

月 日	会 名	会 場	内 容
平成 23 年 4 月 22 日 (金)	第 17 回総会	ぶらざ尾久橋 (尾久橋町会会館)	平成 22 年活動報告・会計報告 平成 23 年活動方針・予算案 交流 高齢者福祉課係長出席
5 月 13 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン 社協 丸尾さん⇒小野さんに
6 月 18 日 (土)	第 1 回定例会	荒川山吹 ふれあい館	ケアマネット荒川 介護支援専門員のアドバイス 交流会
7 月 8 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
8 月 20 日 (土)	第 2 回定例会	荒川山吹 ふれあい館	暑気払い 福祉祭りの概要説明 交流会
9 月 9 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
10 月 22 日 (土)	第 3 回定例会	荒川山吹 ふれあい館	学習会「介護者・要介護者の入退院」 小台佐藤病院 MSW 若月さん 交流会
11 月 11 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
12 月 10 日 (土)	第 4 回定例会	荒川山吹 ふれあい館	伊藤さん取材 DVD 視聴 忘年会 交流会
平成 24 年 1 月 13 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
2 月 25 日 (土)	第 5 回定例会	荒川山吹 ふれあい館	伊藤さん取材 DVD 視聴 オヤジの会 HP 紹介 交流会
3 月 9 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン

平成 24 年度

月 日	会 名	会 場	内 容
平成 24 年 4 月 20 日 (金)	第 18 回総会	荒川山吹 ふれあい館	平成 23 年活動報告・会計報告 平成 24 年活動方針・予算案 交流会
5 月 11 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン 社協 丸尾さん⇒小野さんに
6 月 16 日 (土)	第 1 回定例会	荒川山吹 ふれあい館	ケアマネット荒川 介護支援専門員のアドバイス 交流会
7 月 13 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
8 月 18 日 (土)	第 2 回定例会	荒川山吹 ふれあい館	介護保険課長木村氏 新しくなった介護保険制度 交流会
9 月 14 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
10 月 20 日 (土)	第 3 回定例会	荒川山吹 ふれあい館	荒川包括・松村・飯塚 認知症サポーター養成講座 交流会
11 月 9 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
12 月 15 日 (土)	第 4 回定例会	荒川山吹 ふれあい館	高齢者福祉課係長 今泉氏 インフルエンザの予防 交流会
平成 25 年 1 月 11 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
2 月 16 日 (土)	第 5 回定例会	荒川山吹 ふれあい館	高齢者福祉課 医療相談員 中谷氏 介護施設の選び方 交流会
3 月 8 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン

平成 25 年度

月 日	会 名	会 場	内 容
平成 25 年 4 月 20 日 (土)	第 19 回総会	荒川山吹 ふれあい館	平成 23 年活動報告・会計報告 平成 24 年活動方針・予算案 交流会
5 月 10 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
6 月 15 日 (土)	第 1 回定例会	荒川山吹 ふれあい館	ケアマネット 荒川 介護支援専門員のアドバイス 交流会
7 月 12 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
8 月 17 日 (土)	第 2 回定例会	荒川山吹 ふれあい館	管理栄養士 崎川氏 「介護食について」 交流会
9 月 13 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
10 月 19 日 (土)	第 3 回定例会	荒川山吹 ふれあい館	歯科医師 金井氏 「口腔ケアの重要性」 交流会
11 月 8 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
12 月 14 日 (土)	第 4 回定例会	荒川山吹 ふれあい館	理学療法士 宮下氏 「膝痛の予防」 交流会
平成 26 年 1 月 10 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
2 月 16 日 (日)	第 5 回定例会	荒川山吹 ふれあい館	荒川消防署・医療福祉研究所 「介護世帯における防災対策」 交流会
3 月 14 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン

平成 26 年度

月 日	会 名	会 場	内 容
平成 26 年 5 月 3 日 (土)	20 周年記念行事	サンパール荒川 小ホール	式典 パネルディスカッション 記念パーティ
5 月 9 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
6 月 20 日 (金)	第 19 回総会	荒川山吹 ふれあい館	平成 25 年活動報告・会計報告 平成 26 年活動方針・予算案 交流会
7 月 11 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
8 月 23 日 (土)	第 2 回定例会	荒川山吹 ふれあい館	高齢者福祉課 今泉係長 「認知症予防と荒川区の現状」 交流会
9 月 12 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
10 月 18 日 (土)	第 3 回定例会	荒川山吹 ふれあい館	区内地域支援包括センター 「包括支援センターの取り組み」 交流会
11 月 7 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
12 月 20 日 (土)	第 4 回定例会	社会福祉協議会	ケアマネット荒川 介護支援専門員のアドバイス 交流会
平成 26 年 1 月 9 日 (金)	男性介護者 サロン M	社会福祉協議会	ふれあい粋・活き (いきいき) サロン
2 月 21 日 (日)	第 5 回定例会	社会福祉協議会	かどころの家 小山氏・小林氏 「小規模多機能型事業所の活用」 交流会

<資料 (2) >

基調講演参考資料 (医学書院「訪問看護と介護」1999 年 Vol.4 No.2 より)

オヤジたちへの讃歌

長島 明子

荒川区社会福祉協議会ソーシャルワーカー

「荒川区男性介護者の会」(通称オヤジの会)は、平成6年6月に荒川区役所食堂にて4人のオヤジ達が顔を合わせ、ささやかに誕生した。4人は初対面であったが、何か心に通じ合うものを感じ合った。今、5年目を迎え、メンバーも増え、社会的にもこの会は注目されているという手応えを感じている。介護問題がクローズアップされることが多い昨今、「男性による介護」の割合も増加してきている。「オヤジの会」誕生までのことや敬愛してやまないオヤジ達のことをまとめてみようと思う。

訪問看護指導とMSW

平成2年4月に、私は荒川保健所の非常勤医療ソーシャルワーカー(MSW)として着任した。荒川保健所には、訪問看護指導事業のチームスタッフとしてMSWが配置されており、在宅療養をしている寝たきりや痴呆性の高齢者・難病患者やその家族への訪問相談業務を行っていた。在宅介護支援センターができる遙か以前に在宅ケアをフィールドにソーシャルワーカーが活動していたことは本当に画期的なことである。前任者である太田貞司さん(現在は県立広島女子大助教授)が、2代目の私に申し送った仕事はたった1つ。「介護事件(介護心中など)を起こさせないこと」。介護困難は男性介護者に多く、特に息子が介護者の場合はさらに困難度が高いという太田さんの言葉が、このオヤジの会発足への原動力になったと思っている。

荒川のオヤジ達との出会い

MSWは、訪問看護指導事業の対象者すべてについてほぼ把握していた。男

性の介護者は全体の1～2割であり、統柄としてはやはり夫が占めていた。荒川は東京の下町で職人の町。多くの場合が職住一体の生活をしている。下町に男性の介護者が多いという客観的データーを確認したことはないが、「職住一体」こそ、自宅で男性が介護と仕事を両立させることができる重要な要素ではないかと今でも私は思っている。

そんな下町のオヤジ達と私は訪問相談業務を通じて出会っていったが、男性介護者の家族会の必要性について痛感したのは年に数回の家族会の場面であった。当時、年に1～2回、訪問看護指導事業の一大イベントとして「げんきかい」という事業があった。普段外出の機会のない、訪問看護の対象者を外に連れ出すという屋外療養事業である。このときに並行して「家族会」を開催しており、多くの女性介護者の中で、私は男性介護者の家族会での共通の特徴を見つけたのだ。

【特徴】

- ①男性が介護をしているというだけで、周囲の女性介護者から賞賛の言葉が送られる。先に誉められてしまうので、弱音や本音など言えない状況になってしまう。
- ②女性介護者に囲まれて女々しいことは言えないのでつつい格好の良いところ、立派に介護していることを誇張してしまう傾向がある。
- ③多くは、女性介護者の多弁に圧倒され、頷くだけの聞き役を担ってしまい、いくらも発言しないうちに閉会となってしまう。

個別に家庭訪問をしているときは、多弁に語る彼ら。ケースワークからグループワークへ…男性介護者のグループ化は私のソーシャルワーカーとしての大きな目標となった。

オヤジ達の介護と本音

すべての男性介護者をあてはめることはできないが、長期に自宅で介護をしている男性介護者の多くは、「頑固で一途」という表現があてはまるのではないか。それは、彼らの介護生活の工夫にもしばしば見られる。驚くことに、彼らはその介護体験から実に様々な手作り福祉機器を作っている。手すりやスロープはもちろん、妻が寝ながら電話を使えるような工夫や車椅子にはめ込む

テーブル・滑車を使った移動リフト・階段昇降機まで手作りをしている人もいた。

一見、介護を生き甲斐にし、楽しんでいるような部分を見せながらも、多くのオヤジ達が口を揃えて言う。「本当は俺が介護してもらはずだったのに。まさか自分が介護者になるとは思ってもみなかった。妻の介護をする夫など世界中で自分くらいなものだ」。そして同時にこんな言策も聞かれる。「女房の一人くらい面倒みれないようじゃ、男といえない。自分の手で介護するのが妻への愛だ」。いずれもオヤジの本音と思う。夫としての責任と予想もしていなかった介護生活、不慣れな家事や炊事、妻への様々な思いとこれから先々の不安。そして周囲から聞こえるさまざまな雑音も彼らにはプレッシャーとなるのである。

難病の妻の介護をしていた A さん。以前は町会の役員の常連でもあったが、妻の介護を機に地域活動やつきあひも減っていった。最初のころは出入りしていた近隣の人々も、療養生活が長引くと足は遠のくものだ。

ある日、私が訪問をすると、間もなく向かいの家のおじいちゃんが A さん宅を訪れた。別段用事はなさそうだが、A さんが私を紹介すると、その人はすぐに帰って行った。A さんは苦笑いをして言った。「見慣れない若い女性が訪ねて来たから偵察に来たんでしょう。寝たきりの女房でも生きているうちは、周囲の目がうるさいんだよ」。ともすれば、自分の訪問も近所のあらぬ噂になりかねないことを知った。

S さんは当時 18 年近く寝たきりの妻の介護をしていた。そのころ、ショートステイがだいぶ介護者の中にも広まり始め、私は S さんにもその利用を勧めていた。長年の介護生活は非常に刺激がない単調な暮らしとなっていたし、ミニ旅行でもすればリフレッシュできると考えたからである。すでに S さん自身も高齢であり、妻を看取ったあとに旅行といっても、その時 S さんが旅行に行ける保障はない。S さんの気持ちは複雑だ。旅行は行きたいが、妻を知らない施設に預けるのは不安なのだ。結局、長い時間をかけて少しずつ決意が固まり、S さんはこれまで介護には参加してこなかった息子に妻を頼み、旅行へ行くことを決意した。S さんが旅行から戻ると、私は早速訪問をした。どんな感想が聞けるか楽しみだった。しかし旅行の土産話よりも、私が忘れること

のできない言葉がある。Sさんがしみじみ言ったのだ。「でもね長島さん、1人で旅行に行ってもつまらないもんだね」。旅行に行けば、気分転換ができると決めつけていた自分の愚かさに気がついた。

介護が長期化すると、地域や親戚からも孤立してしまう。周囲の人に自分の悩みを話しても、介護経験のない人にはなかなか理解してもらえず、逆にお説教されることもある。励ましのつもりの周囲の言葉は、慰めにならないことが多い。ついつい1人でいろいろな気持ちを紛らわすためのアルコールが増えるのも男性介護者の特徴である。

男同士の楽しい酒を取り戻そう！

初めは区役所の食堂で始まったオヤジの会。女性は何もなくてもおしゃべりできるが、男性が仲良くなる最大の秘訣は“楽しい酒”と相場は決まっている。男同士、気楽に介護を語り、悩みを分かち合い、互いに労う会。決して明るいことばかりでない介護生活の明日へのパワーへつなげるような楽しい酒を飲もう！それだけでも十分存在価値があるのではないか。私はそう思った。保健所近くにある小さな飲み屋の座敷を借りて、本当に楽しく和やかにオヤジ達の介護宴会(?)は続いた。様々な経済事情もあるため、年会費も定例会の参加費も極力低額にした。飲み屋のオヤジさんもおかみさんも事情を理解し、惜しみなく協力してくれた。妻や母を自宅に残して来ているため、時間もそう長くはとれない。難しい話は抜きにして、とにかく飲んで、しゃべってまた会うのを楽しみにしながら家路につくオヤジ達の後ろ姿は、ささやかな至福の時を過ごした普通の酔っぱらいのオヤジだった。

オヤジの会でオヤジ達は、これまでの様々な介護の失敗談や悩みを打ち明け合った。家事の基本やコッを知らずに困惑したこと。とにかく介護は体力勝負と毎日、肉料理を食べていたら、自分も妻も高尿酸血症になってしまったこと。福祉のサービスを使いたいが、その手続きが面倒だったり相談窓口の敷居が高いこと。妻の下着を買いに行くのが何より恥ずかしくて苦痛だったこと。介護に割かれる時間が増えて、仕事を減らさなければならなかったこと。介護のイライラからつい妻に辛くあたったり、手を出したこと。そして、そんな自分を責めたこと。オヤジの会の素晴らしい所は、決して互いの介護について批評し

ない所だと思っている。ありのままの自分を受入れてくれるからこそ、本音が言えて心の疲れを癒すことのできる場になることをオヤジ達は暗黙のうちに了解しているのである。

オヤジの会は、現在家族を介護している男性、もしくは介護経験のある男性であれば、年齢を問わず入会できる。また、訪問看護婦やソーシャルワーカー・保健婦など、会の主旨に賛同し、会員の活動をサポートする専門職が支援会員として関わっている。会を重ねるうちに、会員も増え、飲み屋の座敷が手狭になった。絶好の会場から離れるのは辛かったが、定例会はただの宴会から学習会を盛り込んだものに発展した。他にも講演会を主催したり、保健所の介護関係の事業に参加協力したり、その活動は荒川区内外を問わずどんどん広がっている。

オヤジ達の心をつかむ秘訣

オヤジ達の本音を聞き出し、その心をつかむのはなかなか難しい。荒川でこのオヤジの会が出来たのは、何より MSW の存在があったからと思わずにはいられない。MSW は、目に見える具体的なサービス提供者でもなく、サービスの決定権すら持たない存在であり、初めは何をするために訪問してくるのか理解できない介護者も多い。具体的なサービス提供をしないことを、最初は辛く思ったが、それが結局、最大の武器となった。来ても来なくても、介護生活に直接影響しない MSW は、サービスの愚痴も不満も改善してほしいことも何でも話してよい気楽な相手なのだ。滞在時間や訪問回数に制限がなく、必要に応じた関わりも可能だ。女性介護者よりも心を開いてくれるまで時間がかかる男性介護者には、とにかくじっくり関わった。こだわることには徹底的にこだわる彼らにとって、もっと楽に介護を…という助言が場合によっては無意味なことも学んだ。徹底的な彼らには徹底的につきあい、その考え方や生き方そして独自の介護論を受け入れてこそ、彼らのハートを掴むことができるのではないか？これが「長島流オヤジとの関係作りの法則」である。そしてあちこちに点在するオヤジ達を線で結び、会として面にする仕事もソーシャルワーカーならではの仕事であり、太田さん時代からの活動の結晶と私は自負している。

これからの男性介護

これからの男性介護は、職住一体が崩壊し、更に困難な様相を呈している。介護をとるか仕事をとるかという選択は、もはや女性のものだけではない。最近には特に実年層の独身男性介護者の増加が目立つ。これまで家事を担ってきた母が倒れ、彼らは、家事全般と介護を一手に、そして一気に担うことになる。仕事も責任の重い職務についていても不思議でない年齢である。

時代とともに男性介護者の層も実態も変化してくることだろう。これからオヤジの会がどのような軌跡を作るか。先のことはわからないが、いつまでも変わらず、オヤジ達の心のオアシスであってほしいと願ってやまない。オヤジの会でいつか旅行に行くこと。それが今の私のささやかな夢である。

(注) 長島明子氏は、現在、NPO 法人ふぁいん副理事長として、ご活躍です。